

# 生物情報モニタリングデータベース部会

(生物情報モニタリングデータベース部会 部会長・名城大学農学部) 橋本 啓史

## はじめに

生物情報モニタリングデータベース部会では、協議会の行う生物調査・既存文献・市民の通報などから得たなごやの生物多様性の現況についての情報を集約・一括管理するとともに、集約された生物情報を広く提供するツールとして活用することを目的として、平成 23 年度からデータベースの構築を行っている。

## 主な活動内容

なごやの生物情報の市民通報の窓口となるデータベース登録システムと、集約された情報を基に分布(確認)状況を地図上に表現する解析・発信システムを協議会ウェブサイト上で稼働させており、一昨年度から外来生物を中心に 11 種の生物の分布情報の収集と発信を行っている。

生物情報モニタリングデータベースのページ

<http://www.bdnagoya.jp/creature/database.html>

## 平成27年度の活動記録

### ● 部会の開催

今年度は 4 回の部会を開催した。

### ● 生物情報の収集・登録・発信

○市民からの生物情報の収集

協議会のウェブサイト上に設置した『生きもの情報登録フォーム』を使い、広く市民から目撃情報の募集を行った。情報を募集したのは、今年度から 13 種追加し、表 1 に示す 24 種類の動植物である。また、昨年度末に新たに作成した情報を募集している生物の特徴や見分け方・登録の方法等を記載した情報募集チラシを様々な機会に配布し、情報提供の呼びかけを行った。また、協議会会員と市民調査員へメールでその時期の注目種をお知らせし(ツバメ(4月9日、6月4日)、コアジサシ(6月4日)、

クマバチ・タイワンタケクマバチ・ニホンアマガエル(8月4日)、ソウシチョウ(1月14日))、情報提供を呼びかけた。

今年度は(平成 28 年 3 月 2 日までに)、18 種 87 件の情報が寄せられた。

寄せられた情報は管理者等が確認し、信ぴょう性の低いものを除いて、生物情報モニタリングデータベースに登録し、蓄積している。

表. 情報を募集している生物の一覧

哺乳類	アライグマ、タヌキ、ハクビシン、ヌートリア
鳥類	ソウシチョウ、ツバメ、コシアカツバメ、イワツバメ、コアジサシ
は虫類	ニホンイシガメ、クサガメ、ニホンスッポン、ミシシippiaアカミミガメ
両生類	ニホンアマガエル、アズマヒキガエル
魚類	アユ、ニホンウナギ、サツキマス(アマゴ)
昆虫	タイワンタケクマバチ、クマバチ、ムネアカハラビロカマキリ、ハラビロカマキリ
植物	オオキンケイギク、外来スイレン

○協議会の調査結果等のデータベースへの登録

協議会で行った生物調査の結果をデータベースに登録するため、データの整理や標本目録の作成を進めた。特に平成 23 年度からの協議会の活動報告書に掲載されている生物調査結果は、名城大学の学生(2名)の協力を得て概ね登録を完了させることができた。

○生物情報のウェブサイト上での提供

ウェブサイト上に公開したデータベースに登録した情報を基に、分布(確認)状況を三次メッシュで地図上に表現するシステム(なごや生物情報閲覧システム)の維持・管理を行った。

なごや生物情報閲覧システムを介して広く一般に情報を公開する種は、希少種を除き、ある程度の情報が蓄積された種から順次、システムで情報を

公開している。平成25年12月からオオキンケイギクと外来スイレン、平成27年3月からヌートリアとソウシチョウについて公開していたが、平成28年1月からツバメとミシシippアカミミガメを追加公開した。

なお、ログインすることで、管理者はシステムに登録されている全ての種について、利用者（研究者等）は希少種を除く種について、このシステムを利用して閲覧することが出来る。

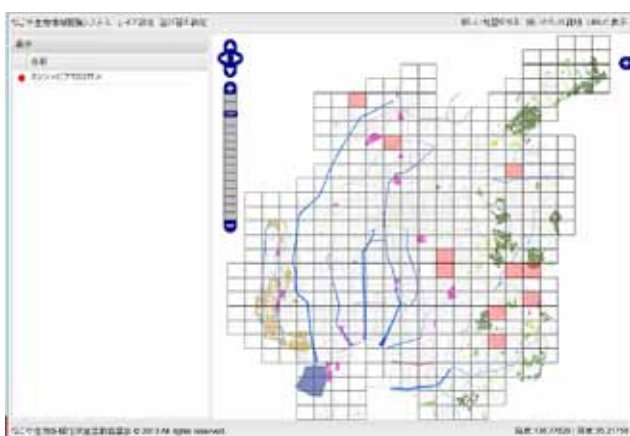


図. なごや生物情報閲覧システムでミシシippアカミミガメの分布(確認)状況を表示した時の例

#### ○協議会のデータベースのシステム改修

より使いやすいシステムにするため、業者に依頼し、データベースおよびウェブサイトの改修を行った。主な改修点は以下の通りである。

##### (1) 体裁の修正

生きもの情報登録フォーム（一般向け）

- ・電子メールアドレスの入力欄を拡張
- ・生息・生育情報の入力欄を拡張

市民登録情報一覧：更新画面

- ・生息・生育情報の入力欄を拡張

地図表示画面

- ・「レイア設定」を「生物種を選ぶ」に変更
- ・地図上部に並ぶ機能選択ボタンの並び替えおよび左側に移動

##### (2) 機能の変更

生物情報の登録、確認、閲覧に係る各ページに以下の機能追加を行った。また、機能の追加にともなう体裁の修正も行った。

- ①生物の確認状況を示した写真の登録枚数を現行の1枚から最大3枚まで登録できるようにした。
- ②一覧表示画面のデフォルトの表示件数を全件とした。
- ③管理者による地点追加の際に緯度・経度情報を必須項目から外した。また、月、日の情報についても必須項目から外し、ブランクのままでの登録を可能にした。なお、年情報については現行どおり必須項目とした。

##### (3) 機能の追加

以下の機能の追加を行った。

- ①生物の確認状況を示した写真登録に際して、サムネイルのサイズにサーバ側で自動的に圧縮した上で保存できるようにした。
- ②一覧表示画面の検索結果、並べ替えの状態をセッションの間保持するようになった。

## 今後について

部会での議論により、今後はこれまで通り生物情報の収集・登録・発信を行っていく他に、新たに以下の2つ活動を追加して行うこととなった。

- (1) 写真・フィルムのデジタルデータ化およびデータベース作成
- (2) 空中写真の蓄積（ドローンによる空撮）